

2026年3月6日

オノミノルの担当パート

タイトル: 二つの祖国を生きる — チリのオノ家四世代目として日本へ

セクション 1: 種まき(幼少期～アイデンティティの芽生え)

- 父の言葉と名字の重み: アジア人のいない環境で、唯一の拠り所だった「名字」と「父の教え」。
 - 周囲から「日本文化の代表」と見なされる戸惑い。
- JICA との出会い: 日本人が町に来たことで、文化が「知識」から「体験」へ。
 - 曾祖父の故郷への憧れが「夢」に変わる。

セクション 2: 覚醒(青年期～日本への第一歩)

- 「日系」という言葉: 16歳で知った「自分の居場所」。
 - 無意識に染み付いていた日本的習慣(靴を脱ぐ、箸、言葉)の再発見。
- 社会活動とチャンス: パルパライソ日系人協会での活動。
 - 2018年「世界青年の船(SWY)」への参加。これが「今、日本へ行かなければ」という決定的な動機に。

セクション 3: 越境(日本移住～奇跡の再会)

- 曾祖父と同じ道のり: 2019年、四世ビザで移住。チリのオノ家で初めて日本に住む人間に。
 - 100年越しの悲願: 2023年、ついに日本の親族と対面。
- 日本社会でのリアリティ: 「知っている日本」と「実際の日本社会」のギャップ。
 - 上下関係(先輩・後輩)への違和感や、若者の社会意識の違い(日本 vs チリ)。

セクション 4: 展望(「日系人の心」と未来)

- チリ日系社会の危機: 文化の希薄化という自然な、しかし寂しい現状。
- 新しい定義「Nikkei no Kokoro»: 血縁を超え、日本を愛するすべての人を巻き込む。
 - スペインで活動する兄(太鼓学校)との共鳴。

Page: <https://barcelonataiko.com/>

<https://studiohibana.com/>

mail: hibanabunka@gmail.com

barcelonataiko@gmail.com

Insta: [@barcelonataiko](https://www.instagram.com/barcelonataiko)

[@hibana.bunka](https://www.instagram.com/hibana.bunka)

結論: 結び

「違い」があるからこそ、私たちは新しくなれる。曾祖父が海を渡った時と同じ「冒険心」を持ち続け、二つの国、二つの文化を繋ぐ「生きた架け橋」として生きる決意。

以上